資料３

施設分離型小中一貫教育校

にのみや学園通信

R5.12.15
第8号

にのみや学園「小・小なかよしプロジェクト」

11 月 28 日(火)、山西小学校の1年生が一色小学校を訪れ、一緒に楽しく活動をしました。にのみや学園では、小学校同士で、朝の会や給食の時間に、オンラインで交流をしてきた学年もありましたが、今回は、初めて対面での交流が実現しました。

一色小学校では全学年で山西小学校の1年生を歓迎しました。山西小の1年生がバスで到着すると、5年生が昇降口で出迎え、体育館では、一色小の1年生が「はじめの会」を進行し、両校が一緒になったグループに分かれて、自己紹介をしてから、校庭、友情の山、スマイルネットルームなどで仲良く遊びました。

友情の山では4年生が、サポートしながら、山頂まで案内しました。中休みには、2・3年生が一緒にサッカーを楽しんでいました。その後も、図工室で自分たちが作ったおもちゃを見せて遊んだり、図書室や教室で過ごしたりして、最後は6年生がバスまでお見送りをしました。子どもたちは、あっという間に仲良くなって、あふれる笑顔がたくさん見られました。

「小・小なかよしプロジェクト」は、にのみや学園としての一体感を高めるとともに、中学校進学前に他の小学校の児童と交流をすることで、中学校で初めて会う緊張感を少しでも和らげ、安心感をもって中学校に進学することをねらいとしています。小学校6年間の中で、いろいろな学年で交流をして、中学校で会えるのを楽しみにできるようになるといいと思います。

優しさのバトン～異学年交流を通して

一色小学校では、全学年が単級であることを生かし、1年生と6年生、2年生と5年生の教室が隣同士になっており、日常的に異学年での交流が盛んです。「小・小なかよしプロジェクト」で全学年が関わっていたのも、ごく自然な姿でした。10月に行われた「オールフレンズ集会」では、1年生から6年生の縦割り班で楽しく給食を食べ、風船バレーや昔遊び、ビンゴ等、仲良く遊びました。縦割り班は各学年2人程度ずつで構成され、6年生が中心となって、丁寧に下級生に声をかけたり、一緒に遊んだり、優しく思いやりのある行動がたくさん見られました。上の学年の子たちが、自分よりも下の学年の子と接することで、こんなにも優しい素敵な姿を見せてくれるのだと、うれしく温かい気持ちになります。そのような上の学年の姿を見ることで、下の学年の子たちも、憧れを感じ、自分もそうなれるように頑張ろうという気持ちが芽生えます。

2年生が生活科の授業で作ったおもちゃを使って、「1年生と遊ぶ会」を行った時には、楽しんでもらえるように一生懸命に準備をして、優しく接していました。さらに、1年生が、来年度入学予定の幼稚園・保育園の園児たちとの交流会では、今度は自分たちが優しく声をかけたり、手をつないでゆっくり歩いたりして、優しさのバトンがしっかりと引き継がれていました。

にのみや学園では、同学年同士の横のつながりと学年を越えた縦のつながりのどちらも大切にしながら、安心して学べる環境づくりに努め、小・中学校9年間の育ちを支えていきたいと考えています。

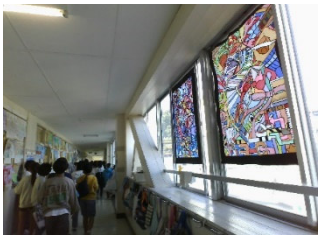
感想等はこちらのフォームにお願いします。
にのみや学園通信 HP
https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html

施設分離型小中一貫教育校

にのみや学園通信

R6.1.30
第9号

伝統のステンドグラス、小・中学校の架け橋になる



<二宮小学校の廊下に飾られたステンドグラス>

10月の二宮中学校の汐鳴祭、二宮西中学校の秋麗祭で展示したステンドグラス。各クラスでテーマを設定し、下絵が描かれた黒いラシャ紙をカッターで切り抜き、和紙（以前は色付きビニール袋やカラーセロファン）を貼り、窓ガラスを飾る‘ステンドグラス風’に仕上げていきます。二宮中学校で 25 年以上も前からクラス単位で作り始められ、その後両中学校で手法やサイズを変えながら毎年受け継がれて今日に至っています。

今年度はにのみや学園として、二宮中学校では小中交流会の中で小学生がその制作風景を見学する機会や、当日の汐鳴祭に招待して実際に飾られている様子を見学する機会を設けました。さらに 11 月から 1 月にかけて、二宮中学校の作品は二宮小学校、二宮西中学校の作品は山西小学校で飾られ、そして両校の作品は 2 月に一色小学校での「一色スマイルアート展」に出展される予定になっています。

<ステンドグラスの制作風景>

小学校では、2 年生の図画工作の授業でカッターナイフの特性や正しく安全に使う方法を学びます。カッターナイフを巧みに使って完成した中学生の作品に間近に触れることで、子どもたちが小・中学校の学びのつながりを意識できればという願いから、このような企画が実現しました。また完成した作品だけではなく、中学生がクラス一丸となって制作に取り組む様子を参観する機会を設けられたことも、小学生にとってはこれから先につながる中学校生活への展望となり、中学生にとっても自分たちの取組に誇りを感じることができる有意義な時間になったことと思います。

小学校での道徳の授業に学ぶ ～小中一貫カリキュラムワーキンググループの取組～

<7月：教員同士による模擬授業の様子>

にのみや学園では、学園内の小・中学校のすべての教員が 14 の教科・領域等に分かれて9年間を見通したカリキュラム研究に取り組んでいます。既習の学習事項を踏まえ、先を見通した指導の充実を図るための協働的な研究活動を通して、異校種間の相互理解も深まります。今回は道徳部会の取組をご紹介します。部員は小学校 4 名、中学校 3 名です。

☆研究テーマ☆「『自分の心身に向き合い他者を尊重し、協働できる子ども』を育てる」

☆具体的な取組☆①児童・生徒同士の対話があり、他者理解につながるような授業づくり

②授業の始めと終わりで自分の変容に気づけるような授業づくり

7 月 27 日には二宮中学校の教室に部員が集まり、教師役・児童役となって「相手の本当の思いに寄り添う思慮深さ」（親切、思いやり）を主題として教材「心と心のあく手」を用いて模擬授業を行いました。児童の意見に対してどのように問い返せば深い学びにつながるのかを柱に据え、児童役の部員が自分の意見や考えを「もっと言いたい！」となる模擬授業でした。その後は、グループリーダーにより、一人の人間として教材を読むこと、内容項目について理解を深めること、子どもの無限の可能性を信じること、授業のねらいを具体的に考えること等、大切な「道徳授業の基本」が確認され、小・中学校のそれぞれの実態をふまえながら活発な意見交換がなされました。

<1月：山西小学校5年生の授業公開での板書>

そして迎えた1月 16 日。山西小学校で部員が5年生の授業を参観しました。7月の模擬授業と同じ主題と教材です。おばあさんに手を貸す少年と陰で見守る少年2枚の絵を見比べて「親切とは？」を児童は考えます。自分の意見を言いたくてたまらない児童たちが次から次へと挙手をして発表します。担任は問い返し続け、主題に迫ります。この児童のことばが光り輝く授業は、日頃からの学級経営の充実と「道徳授業の基本」を貫き通した授業実践の積み重ねであると実感しました。

感想等はこちらのフォームにお願いします。

にのみや学園通信 HP

https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html